

# 事業評価シート

担当課・室長：環境教育推進室長

事業名	環境教育・環境学習の場や機会の拡大
上位施策名	環境教育・環境学習の推進
1 事業の概要	<p>持続可能な社会を構築するためには、各主体が行動に環境配慮を織り込んでいくことが不可欠であり、環境教育・環境学習を推進することが重要。</p> <p>本事業は、地域における体験を重視した自主的な環境教育・環境学習を推進するため、</p> <p style="padding-left: 40px;">こどもエコクラブ事業等の全国的及び広域的観点からの学習機会の提供</p> <p style="padding-left: 40px;">拠点となる施設の整備や既存の施設に対する支援、それらの活用等を図るものである。</p>
2 進捗状況	<p>パンフレットの作成・配布等各種の広報活動の結果、こどもエコクラブのクラブ数及び会員数は、初年度（平成 7 年度）約 1,900 クラブ、約 28,000 人から平成 12 年度末現在約 4,300 クラブ、約 75,000 人に増加。（出典 13 年 4 月 6 日報道発表資料）</p> <p>先進的な廃棄物処理施設周辺地域等において、地方公共団体等が行う、交流研修、情報提供、研究開発等の機能を備えた環境教育・環境学習の拠点施設の新設又は改修事業に対する補助事業を平成 13 年度に創設。</p>
3 評価	<p>こどもエコクラブは、国が主唱して仕組みを提供し、地方公共団体が地域における活動の場等をコーディネートする形が有効に機能し、全国各地で多彩な活動が展開されており、環境教育・環境学習の推進に大きな成果をもたらしている。平成 11 年度にはこどもエコクラブは国連環境計画からグローバル 500 賞を受賞した。</p> <p>こどもエコクラブの活動の特徴として、自主性、継続性、地域性、発展性、国際性が挙げられることから、こどもエコクラブ事業は、「体験を通じて自ら考え、調べ、学び、行動する」という過程を通じた学習を通じて、子どもの高い環境保全意識や行動力を醸成することに有効である。</p> <p>そこで、地域内に少なくとも一つはこどもエコクラブが存在するよう、平成 17 年度末約 24,000 クラブ（小学校校区数約 24,000 と同数）の結成が本事業の目標の一つ。地域の仲間集団、学校集団、家庭等の多様な形での参加が可能であることや仲間と楽しみながら活動できることなどから、少子化が進行している中でも、クラブ数、会員数共に毎年増加し、全国的で大規模な事業となっているが、今後も地方公共団体との連携の下、事業を継続することが必要である。</p> <p>この際、マスメディアと連携した広報普及活動、インターネット等を活用した学習プログラムの提供等、より効果的、効率的な事業展開について検討する。</p> <p>他の部局においても、全国的及び広域的観点からの学習の場や機会の提供を行っており、例えば全国水生生物調査では、平成 12 年度約 72,000 人が参加し、学校や市民主体の調査であることから、環境教育・環境学習の推進に効果を上げている。</p>

	<p>新設又は改修される施設は、先進的機能を有する拠点施設として、地域における環境教育・環境学習の展開を支援していくことが求められる。</p> <p>また、東京北の丸公園に位置する「科学技術館」は、科学技術の理解促進のための展示や教育指導を行っている全国の科学館の中心的な施設であり、小中学生を中心に全国から年間 50 数万人の利用者があり、その展示及び学校関係者とのネットワークを活用した環境科学技術に関する環境学習を推進することは、環境教育・環境学習全体の推進の上で有効である。そこで、科学技術館における既設の展示や蓄積されている情報等を活用した環境科学技術の具体的普及方策を検討することが必要。</p>
4 予算事項名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こどもエコクラブ事業費</li> <li>・ 地域環境拠点施設整備費補助金</li> <li>・ 環境科学に関する環境教育推進事業</li> </ul>
5 対応副施策等	